

1 題材 「だれもが過ごしやすい住空間とは？～未来のわたしの住まいづくり～」

2 指導観

- 住まいとは、暮らしの拠点であり、家族が生活するための器である。少子高齢化のさらなる進展、家族という概念の変化、地域との関係、IoT に代表される技術革新など、住宅とそれを取り巻く環境が変わりつつある。住まい方を充実させることは、人生を豊かにすることにつながる。

本題材では、自分の住生活を振り返りながら、誰もが安心して生活することができる環境を探る活動を通して、安全で快適な住まい方を捉えることをねらいとしている。学習内容としては、住居の機能、日本の伝統的な住まい方、家族の関わりと住空間の使い方、快適な住環境の条件、幼児や高齢者のいる家庭における住空間の安全性、災害への住まいの対策、環境共生の住まい方などがある。このような学習内容から、健康で安心・快適な生活を送るために住まいに求められることや、住生活のよりよい実現に向けての必要な要素に気付かせることができる。また、ライフステージに合わせた課題解決を行うことで、よりよい住生活を創るためには、自分が住まいの主人公であるという、主体者意識をもたせることができる。そして、住生活を見つめることは、共に生活していく基盤を築くことにもつながる。以上のことから、本題材を学習することは、現在から将来の住生活において、よりよい住まい方を見出すことができるため大変意義深い。

○

個人情報保護のため、
生徒観は省略しています。

- 本題材の指導にあたっては、誰もが安全・快適に住まうためのマニュアル作成を学習課題に設定し、自身の住まい方の現状を把握し、改善しようとしたり、安全・安心かつ快適に暮らせる住まい方について提案したりさせることで、今後の豊かな住生活につなげさせたい。そのためにまず、安全で快適な住まいについて話し合わせる。ここでは、安全で快適な住まいについて自分の考えと他者の考えを比較させるために、オンラインホワイトボードで意見を集約させ、共通項を示す。次に、安全で快適な住まいの条件を探らせる。ここでは、伝統的な和式の住まい方をイメージしやすくするために、特徴的な部分を拡大して提示する。また、住空間を再現し、視点を広げて室内の状況を観察させるために、3DCADソフトウェアを用い、室内の状況を立体的に確認させ、誰もが安全に住むことができる条件を問う。さらに、自分の家庭を安全で快適な住空間にするための実践を行わせる。ここでは、自分の家庭の課題に気付かせるために、各自撮影しておいた生活空間を基に、安全・快適の視点で問題点を問う。最後に、これからの安全で快適な住生活について考察させ、今後の生活に生かせる住まいのマニュアルを作成させる。ここでは、自分の生活の変容を促すために、リフレクションシートを振り返らせ、今後の課題へ向けて助言する。

3 目標

- 生活と住空間の関わり、住居の機能、家庭内事故や自然災害から住まいを守る方法など、安全を考えた住空間の整え方について説明することができる。
- 自分の住まい方を見つめ、家庭内事故や自然災害における家族の安全を踏まえた住空間の整え方について、課題を設定し、解決策を構想することができる。
- 自分の住まい方を振り返り、課題解決に進んで取り組んだり、これからの自分や家族の住生活に生かそうとしたりしている。

4 計 画 (9 時間)

知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	配時	学習活動・内容	手だて (○) 研究に関する手だて (◎)	評価規準
一	2	1 安全で快適な住まいについて話し合う。 ・住まいの働き	◎ 安全で快適な住まいについて自分の考えと他者の考えを比較させるために、電子ホワイトボードで意見を集約させ、共通項を示す。 【C2】	態：安全で快適な住まいについての課題を見つけようとしている。 知：生活と住空間のかかりについて説明できる。
		学習課題 「住まいのアドバイザー」として様々な人の悩みにアドバイスしよう。		
二	4	2 住まい方の変化を調べる。 ・日本の伝統的な住まい方 ・生活行為と住まいの空間	◎ 和式の住まい方をイメージしやすくするために、特徴的な部分を拡大して提示する。 【A1】	知：住まいの特徴と住空間のかかりについて説明することができる。 思：健康・快適のための住空間の整え方を検討することができる。
		3 暮らしやすい住まい方を提案する。 ・家族の住まい方 ・空間の使い方 4 快適な室内環境の整え方を探る。 ・室内環境と健康被害 ・シックハウス症候群	○ 住まいの環境の問題点に気付かせるために、教室内の室内環境を調べさせ、よい条件と比較する。	
本時		5 安全・安心な住まい方を話し合う。 ・家庭内事故の防止 ・バリアフリー ・ユニバーサルデザイン	◎ 住空間を再現し、視点を広げて室内の状況を観察させるために、3DCADソフトウェアを用い、室内の状況を立体的に確認させ、誰もが安全に住むことができる条件を問う。 【B3】 【C3】	思：家庭内の安全対策を見つけることができる。
		6 地域の災害の危険性と対策を探る。 ・災害と防災・減災 ・地震への備え	◎ 家庭の災害対策につなげさせるために、生活空間の記録を用いて、できることを問う。 【B2】	思：災害に備えた住まいの在り方を提案することができる。
三	2	7 安全で快適な住空間を作る。 (1) 課題を設定し、実践計画を立てる。 ・家族の安全 ・室内環境の整え方	◎ 自分の家庭の課題に気付かせるために、各自撮影しておいた生活空間を基に、安全・快適の視点で問題点を問う。 【B6】	態：家族の安全を考えた住まい方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 思：実践の改善点をまとめ、今後の課題を見つけることができる。
		※家庭実践を行う。 (2) 家庭実践について発表する。 ・住空間の使い方と安全	◎ 次につながる振り返りにさせるために、各自が行った実践をデータで保存させ、交流の場を設定する。 【C6】	
四	1	8 これからの安全で快適な住生活について考察し、誰もが使えるマニュアルを作成する。 ・持続可能な住まい方	◎ 自分の生活の変容を促すために、これまでのリフレクションシートを振り返らせ、今後の課題へ向けて助言する。 【B7】	態：よりよい住生活をめざして、住居の機能と安全性について検討しようとしている。

5 本 時 令和3年11月1日(月) 第3校時 計画 第二次の1 2年3組教室にて

(1) 主 眼

- モデル家族の安全を考慮した住空間の使い方を検討する活動を通して、自分の家庭での安全対策について説明することができる。

(2) 準 備

- ①家庭内事故死の原因のグラフ ②家庭内事故と交通事故の比較のグラフ
- ③3DCADソフトウェア ④意見集約シート

(3) 過 程

学習活動・内容	準備	手だて(○)と研究に関わる手だて(◎)評価(◇)	形態	配時
1 身近なヒヤリハットについて話し合う。 ・家庭内の危険 ・家庭内事故 めあて 家庭での危険や事故について、その要因と対策を探ろう。	① ②	○ 日常的な転倒や転落が大きな事故につながることに気付かせるために、家庭内事故死の原因についてのグラフを示す。	一斉	7
2 モデル家族の家を想定し、起こりうる事故を見つける。 ・幼児の特徴と危険 ・高齢者の特徴と危険	③	○ どの立場の人でも安全に生活できるようにするために、モデル家族に幼児と高齢者を設定する。 ◎ 住空間を再現し、視点を広げて室内の状況を観察させるために、3DCADソフトウェアを用い、室内の状況を立体的に確認させ、幼児や高齢者などライフステージに合わせて、安全に住むことができる条件を問う。 【B3】【C3】	個 ↓ 小集団	15
3 家庭内事故の防ぎ方をまとめる。 ・住空間の整え方 ・バリアフリー ・ユニバーサルデザイン	④	◎ 幼児や高齢者をはじめとする様々な人の立場で安全に暮らせるようにするために、端末で家庭内事故につながる危険箇所等を集約し、他のグループの意見も参考にしながら、自分や家族で改善可能な方法を見つけるよう指示する。 【C2】 ○ 家族の構成や個々の住まいに応じて空間を整える必要があることに気付かせるために、モデル家族の立場での改善策を問う。	小集団 ↓ 一斉	18
4 自分の家を安全で快適な住まい方にするための計画についてまとめる。 ・家庭内事故の予防策		○ 家庭での取り組みを可視化させるために、安全の視点での課題と快適の視点での課題を問う。 ◇ 家庭内事故に関する課題を見つけ、自分の家庭で取り組める安全対策についてまとめているか。 ＜ノート分析＞	個	10